

防火予防体制づくり強化



【中川学区】

■世帯数：3,007 世帯

■人 □：5,952 人

■面 積：1,844 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① パトロール

学区全域3方面へ毎月1回夜間パトロールを行う。延べ参加者数は約130人。

② 町防だより

年に2回発行予定、地震・火災・風水害などへの心得などについて啓発。

③ 自主防災会との交流と研鑽

自主防災会組織の把握、防災備品の点検等。

④ 新会員との勉強会

セミナーなどへの参加。

⑤ 防災訓練

3地区において年1回ずつ実施。AED、消火器の使用訓練など行う。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、チラシの回覧、掲示板への掲示、年間スケジュール表で周知徹底を図る。

【アピールポイント】

活動の継続は力なり。

2 きっかけ、背景

学区内の火災・放火が多く、放火防止対策が不十分だった（軒下に新聞紙・雑誌を放置している）ことや、火災に対する意識が不足していた（ライターでの火

遊び・やかんの空焚き等）ことから、住民と防火に対する情報共有と意識啓発の必要性を感じ、防火予防体制を強化することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
防災安心まちづくり委員
計約 40 人

(2) 他団体との協力

消防団、各町内会自主防災会

(3) 運営協力

学区連絡協議会、各町内会自主防
災会

4 実施のスケジュール

H17 年 全世帯を対象に防災アンケート実施



H18 年 全世帯を対象に防災アンケート No2
実施



H19 年 自主防災組織の見直し



H20 年 避難マップの作成・展示展開（各町内
会）



H21 年 自主防災会・防災備品の平準化を図る

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者が増加したほか、住民意識が高まり、2年連続でアンケート調査を行ったが、回答率が上がるとともに、調査結果へも関心が寄せられ、意識向上が見られる。
- 多くの人が防災訓練に参加し、避難場所と避難設定ルートの確認をし、また避難ルートを決めていない人はその設定ができた。

(2) 苦労した点

- 一人暮らしの方の対応に苦労した。また高齢者が多く、理解をしてもらうのに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- 津波からの避難場所が少ない。また、放火対策で意識の低い人に対する、息の長い活動が必要であり、後継者育成が最大の課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- 防火意識が不足している人の関心を高める活動が必要であり、息長く、根気が大事。